

第43回(2018年度)地域安全学会研究発表会(秋季)に参加しました(2018/11/2-3)

テーマ：災害科学

場所：静岡県地震防災センター（静岡県静岡市）

11月2日(金)～3日(土)の2日間、静岡県地震防災センター（静岡県静岡市）で地域安全学会の秋季研究発表会が開催されました。地域安全学会は、研究者、技術者、国や地方自治体の実務家などによる、自然災害や人為災害を対象として地域の安全問題に関する研究を行う学会です。当研究所からは、3編の査読論文（うち、筆頭著者1名）と、7編の一般論文（うち、筆頭著者1名）の研究発表を行いました。査読論文の口頭発表では、佐藤翔輔准教授（情報管理・社会連携部門）が登壇し、一般論文発表では、寅屋敷哲也助教（人間・社会対応研究部門）のポスター発表が行われました。著者及び論文名は次の通りです。

（著者名は、筆頭著者と研究所構成員のみ記載、下線は研究所構成員。）

【査読論文】

佐藤真吾、村尾修：東日本大震災の経験に基づく生活支障の定量評価

佐藤翔輔、今村文彦：過去の災害対応の経験は継承されたのか・活かされたのか？：東日本大震災で対応した宮城県職員を対象にした質的調査結果と提案

本多明生、杉浦元亮ら：災害を生きる力へのポジティブ心理学的アプローチ ―感謝特性との関係に関する検討―

【一般論文】

馬場亮太、佐藤翔輔、今村文彦：来訪者を対象とした新しい津波避難誘導の試み ―宮城県七ヶ浜町菖蒲田海水浴場での「オレンジフラッグ」の適用―

柳谷理沙、佐藤翔輔ら：「Team Sendai（チームセンダイ）」による被災自治体職員の災害対応の継承に関する研究 **※優秀発表賞受賞**

草刈敏夫、定池祐季、佐藤健ら：防災街歩きを活用した地域防災情報地図の作成

寅屋敷哲也、丸谷浩明：気仙沼市の東日本大震災からの水産加工業の復興過程に関する分析 ―事業所立地の変遷に着目して―

新家杏奈、佐藤翔輔、今村文彦：岩手県陸前高田市と宮城県気仙沼市を対象にした津波避難行動の比較分析

橋田和明、佐藤翔輔ら：「全国統一防災模試」にみる国民の災害対応知識の傾向分析 **※優秀発表賞受賞**

松川杏寧、寅屋敷哲也、杉安和也、佐藤翔輔ら：「地域安全学 夏の学校 2018-基礎から学ぶ防災・減災-」：地域安全学領域における若手人材育成 その3



口頭発表（佐藤翔輔准教授）



ポスター発表（寅屋敷助教）

文責：寅屋敷哲也（人間・社会対応研究部門）